

尾久初空襲 後世に継ぐ

真珠湾攻撃からわずか四カ月後、荒川区は米軍による日本初の本土空襲を受けた。太平洋戦争初期に起きたこの「尾久初空襲」を後世に語りつぐコンサートが十五日午後

一時半から、同区荒川のサンパール荒川大ホールで開かれる。主催は地元の尾久橋町会など。

一九四二年四月十八日昼すぎ、米空軍B25爆撃機が現在の荒川区東尾久の上空に飛来し、荒川（現在の隅田川）沿いの住宅地に爆弾三発と焼夷弾を投下した。

警視庁の記録によると、死亡十人、重軽傷四十八人、全焼全壊五十二

あす、荒川でコンサート

戸、半焼半壊十四戸の被害を出した。米軍の記録によれば、本来の爆撃目標は北区赤羽の陸軍造兵廠の兵器庫や対岸の千住火力発電所だったとされる。

二〇〇〇年に開かれた追悼集会を継承、発展させる形で〇九年、初めてコンサートを開き、今年で四回目。今回は地元の区立尾久八幡中学校吹奏楽部の演奏や、空襲体験

者と都立竹台高校演劇部による対話劇を行い、区立尾久小学校と大門小学校の児童は研究発表する。竹台高吹奏楽部と地元合唱団「サニーコーラス」も「平和へのコンサート」と題して演奏し、平和への誓いを込める。入場無料。問い合わせは、実行委員長の田村さんへ。電話03(3810)0800へ。

(井上圭子)